

## 8.1.21 事業採算性

## (1) 調査事項

調査事項は、表 8.1.21-1 に示すとおりである。

なお、組織委員会による東京 2020 大会の決算額の公表時期との関係から、本フォローアップ報告書ではミティゲーションの実施状況について調査した。

表 8.1.21-1 調査事項

区 分	調査事項
予測した事項	—
予測条件の状況	—
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京にどのようなレガシーを残せるか」、「都民生活への影響」、「整備費高騰の懸念への対応」の3つの視点から会場計画の再検討を実施し、近隣県まで含めた既存施設の活用による効率的な競技会場配置、競技会場の設計や工法の見直しなどにより、可能な限り経済的な整備費となるように検討した。</li> <li>・東京都の整備する新規恒久施設においては、施設の機能や安全性などを確保しながら、可能な限り経済的な整備費となるように検討したうえで整備を進めた。</li> <li>・組織委員会が整備する仮設オーバーレイにおいては、テストイベントの簡素化・期間の見直しや資材単価の精査等によって、可能な限り経済的な整備費となるように検討したうえで整備を進めた。</li> <li>・大会運営については、公有地活用による駐車場等賃借料の見直し、地方会場の一部における放送用映像回線の地中化の見直しやオリンピック・パラリンピックファミリーホテルの客室の仕様見直しなどにより可能な限り効率的な運営経費となるように検討を進めている。</li> </ul>

## (2) 調査地域

調査地域は、全競技会場等の範囲とした。

## (3) 調査手法

調査手法は、表 8.1.21-2 に示すとおりである。

表8.1.21-2 調査手法

調査事項	ミティゲーションの実施状況	
調査時点	開催前及び開催中とした。	
調査期間	ミティゲーションの実施状況	開催前及び開催中とした。
調査地点	ミティゲーションの実施状況	全競技会場等の範囲とした。
調査手法	ミティゲーションの実施状況	「東京2020大会振り返り」（令和3年12月 組織委員会）等の関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.1.21-3(1)～(2)に示すとおりである。

表 8.1.21-3(1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「東京にどのようなレガシーを残せるか」、「都民生活への影響」、「整備費高騰の懸念への対応」の3つの視点から会場計画の再検討を実施し、近隣県まで含めた既存施設の活用による効率的な競技会場配置、競技会場の設計や工法の見直しなどにより、可能な限り経済的な整備費となるように検討した。</li> <li>・東京都の整備する新規恒久施設においては、施設の機能や安全性などを確保しながら、可能な限り経済的な整備費となるように検討したうえで整備を進めた。</li> </ul>
----------	---

実施状況

東京都及び組織委員会は、競技会場計画の再検討により近隣他県まで含めた既存施設の活用による効率的な競技会場配置や、競技会場の設計、工法の見直し等により、可能な限り経済的な整備費、運営経費となるよう検討した。

2014年(平成26年)9月には、東京都が整備する10施設のうち3施設(夢の島ユース・プラザ・アリーナA及びB、若洲オリンピックマリーナ)について代替調査を行うことを公表した。また、アクアティクスセンターや海の森水上競技場、有明アリーナについては大会後に適正規模に縮小する方法、整備の圧縮などについて、それぞれ基本設計を通じ検討した。

これらの結果、立候補ファイルの招致計画を見直し、既存会場の活用を推進することとなり、既存会場の利用は当初の4割から6割にまで増加した。

2015年(平成27年)2月、6月、12月のIOC理事会において、上記に関連する競技会場の変更などにつき、それぞれIF(競技団体)の事前調整・承認を経た上で、承認された。

	立候補時	<都内>	見直し後(注1)	<都内>	最終(注2)	<都内>
全体	37	<31>	37	<25>	43	<25>
都内会場の割合		84%	減	68%		58%
新設(恒久)※1	11	<11>	8	<8>	8	<8>
全体に占める割合	30%	減	22%		19%	
仮設施設	11	<10>	8	<7>	10	<7>
全体に占める割合	30%	減	22%		23%	
既存施設	15	<10>	21	<10>	25	<10>
全体に占める割合	40%	増	56%		58%	

(注1) 招致計画の見直し(～2015.12)

新設→新設(他競技と併用)  
 ・夢の島ユース・プラザ・アリーナA ⇒ 武蔵野の森総合スポーツプラザ(バドミントン)

新設→既存  
 ・夢の島ユース・プラザ・アリーナB ⇒ さいたまスーパーアリーナ(バスケットボール)  
 ・若洲オリンピックマリーナ ⇒ 江の島ヨットハーバー(セーリング)

仮設→既存  
 ・有明ペロドローム ⇒ 伊豆ペロドローム(自転車競技(トラック))  
 ・海の森マウンテンバイクコース ⇒ 伊豆マウンテンバイクコース(自転車競技(MTB))  
 ・ウォーターポロアリーナ ⇒ 東京辰巳国際水泳場(水泳(水球))

既存追加  
 ・幕張メッセC(ゴールボール)

※コスト削減効果は2,000億円程度と推計

※1 立候補ファイル時に「計画」と分類されていたオリンピックスタジアムと武蔵野の森総合スポーツプラザを含む

(注2) 追加競技の会場選定等(2016.1～)

追加競技に関する仮設追加  
 ・釣ヶ崎海岸サーフィン会場【サーフィン】  
 ・青海アーバンスポーツ会場【スポーツクライミング】

追加競技等に関する既存追加  
 ・横浜スタジアム【野球・ソフトボール】  
 ・福島あづま球場【野球・ソフトボール】  
 ・茨城カシマスタジアム【サッカー】

会場見直しに関する仮設→既存  
 ・<スタート>皇居外苑(仮設)～<ゴール>武蔵野の森公園(仮設)  
 ⇒<スタート・ゴール>皇居外苑(※)  
 ⇒<スタート>武蔵野の森公園(仮設)～<ゴール>富士スピードウェイ(既存)【自転車競技(ロード)】

会場見直しに関する仮設追加  
 ・国立競技場(※) ⇒ 札幌大通公園(仮設)【陸上(オリマラソン)】  
 ・皇居外苑(※) ⇒ 札幌大通公園(※)【陸上(競歩)】

(※) はとりやめ又は他競技と併用でありカウント済

出典:「東京2020大会振り返り」(令和3年12月 組織委員会)

会場計画の見直しの内容

表 8.1.21-3(2) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織委員会が整備する仮設オーバーレイにおいては、テストイベントの簡素化・期間の見直しや資材単価の精査等によって、可能な限り経済的な整備費となるように検討したうえで整備を進めた。</li> <li>・大会運営については、公有地活用による駐車場等賃借料の見直し、地方会場の一部における放送用映像回線の地中化の見直しやオリンピック・パラリンピックファミリーホテルの客室の仕様見直しなどにより可能な限り効率的な運営経費となるように検討を進めている。</li> </ul>
実施状況	

組織委員会では、2021年(令和2年)3月24日の東京2020大会の延期発表後、大会簡素化の項目等について検討に着手した。

2021年(令和2年)8月の調整委員会、NOC(国内オリンピック委員会)/NPC(国内パラリンピック委員会)、IF(競技団体)、メディア・パートナー等への説明・議論を経て9月24日、25日のIOC調整委員会において、52の見直し項目に合意した。見直し項目は、大会参加者総数の削減方針、大会直前に行われるIOC総会のセレブレーション事業の取り止め、競技会場ラウンジの合理化、UAC(ユニフォームアクレディテーションセンター)の施設変更と使用料抑制、MPC(メインプレスセンター)等の運営期間の短縮、ロックダウン期間の短縮とセキュリティスイープスケジュールの見直しなど、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、都民・国民の理解を得やすい大会となるよう、会場運営の簡素化や競技に直接関係のない事業の削減・廃止等を実施した。

区分	見直し項目	区分	見直し項目
I. ヒト (大会関係者)	(1)大会関係者の人数 大会関係者の人数 大会関係者が使用する交通機関の料金(空港-ホテル間) 大会関係者が使用する家具・什器・備品等の数量 大会関係者向けテクノロジー機器の調達および保守 大会関係者の飲食提供数 (2)サービスの合理化 オリンピックファミリーに係るイベント・レセプション等 オリンピックファミリー-ホテル等における映像提供方法(ケーブルテレビWeb動画配信) オリンピッククラブの運用 オリンピックファミリー/パラリンピックファミリーラウンジの設備・運用 IFラウンジの設備・運用 遠隔地からの記事作成を可能にするリモートレポート NOC/NPC選手団团长セミナー実施方法(オンライン開催からオンラインへ) 選手団登録手続きの効率化(オンライン化) 選手村における航空会社搭乗手続きのための設備・運用 選手村内におけるハウスキーピング等サービス NOC/NPCに対する各種サービス	III. 盛り上げ(機運醸成)	(1)イベント関連 閉会式当日のオペレーション(サービスレベル、参加者等) 聖火リレーの期間・実施方法 選手団の選手村入村式 スポーツレゼンテーション 会場内での競技体験等プログラム ライブサイト トーキョーウオーターフロントシティ 東京2020NIPPONフェスティバル (2)ルック関連 競技会場/選手村等のルック シティドレッシング、スベクタキュラー等都市装飾 グリーンベニュー対策範囲(会場のマスキング等)
II. モノ(インフラ等)	(1)会場/施設 会場における仮設オーバーレイ等の仕様・サービスレベル 関係者用座席数 会場使用期間 競技運営における仮設構造物 MPCの運営期間 選手村の運営期間 練習会場の使用期間等 UACの施設計画、運用 組織委員会オフィススペース 会場で使用する電力供給機器、通信ネットワーク 放送事業者が使用する電力供給機器 放送用コンパウンド、ビューティーカメラ 組織委員会スタッフ向けITサービス 大会用ITサービス運用体制 (2)輸送サービス バススケジュール等輸送サービス MSS(物質検査場)の数 大会関係者の出入国サービス 各空港へ設置するアクレディテーションカウンターの運営期間 大会関係者への公共交通無償化 大会関係車両の高運道路利用料金	IV. 収入その他	(1)収入関係 収入関係 (2)その他 組織委員会スタッフの要員計画 テストイベント/演習 セキュリティ その他

出典：「東京2020大会振り返り」(令和3年12月 組織委員会)

大会の簡素化に関する52項目

(空白のページ)